

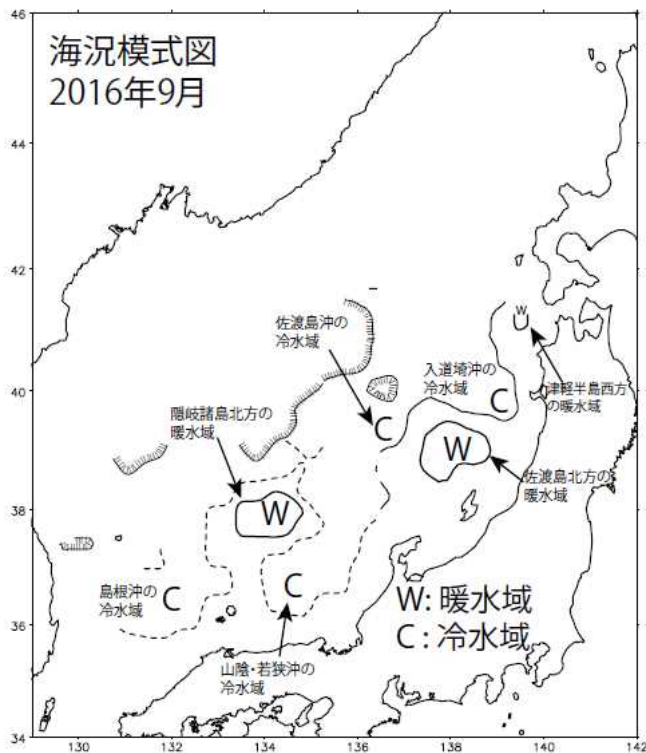


平成28年度 第3回 日本海海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(平成28年10月中旬～12月)のポイント

- ・ 対馬暖流域の表面水温は” 平年並み” で経過する。
- ・ 対馬暖流域の50m深水温は日本海北部及び西部ともに” 平年並み” で経過する。



2016年10月中旬～12月の海況

- 隠岐諸島北方の暖水域は東進し、能登半島北方に分布。
- 佐渡島北方の暖水域は勢力を縮小しつつ北東へ進み、青森西方に分布。
- 津軽半島西方の暖水域は消滅。
- 島根沖の冷水域は規模・接岸距離ともに平年並み。
- 山陰・若狭沖の冷水域はやや大きく接岸距離は平年並み。
- 佐渡島沖の冷水域はやや小さくやや離岸。
- 入道埼沖の冷水域は規模・接岸距離ともに平年並み。

問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 日本海区水産研究所

担当：業務推進部 加藤、江連

資源環境部 渡邊、井桁

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.fra.go.jp/>

平成28年度 第3回 日本海海況予報

1. 今後の見通し（2016年10月中旬～12月）

- (1) 隠岐諸島北方の暖水域は東進し、能登半島北方に分布する。佐渡島北方の暖水域は勢力を縮小しつつ北東へ進み、青森西方に分布する。津軽半島西方の暖水域は消滅する。
- (2) 島根沖の冷水域の張り出しは、規模・接岸距離ともに平年並みで経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや大きく接岸距離は平年並みで経過する。佐渡島沖の冷水域の張り出しは、やや小さくやや離岸で経過する。入道埼沖の冷水域の張り出しは、規模・接岸距離ともに平年並みで経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“平年並み”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海北部及び西部ともに“平年並み”で経過する。

2. 経過（2016年6月～2016年8月）

- (1) 6月に隠岐諸島西方で見られた暖水域は7月に消滅。6月に隠岐諸島北方に見られた暖水域は、8月まで停滞。6月に能登半島北方に見られた暖水域は東進し、8月には佐渡島北方に分布。佐渡島東方～津軽半島沿岸に見られた暖水域は、7月に勢力を縮小しつつ定在したが、8月には消滅。
- (2) 島根沖の冷水域は、6月は規模はかなり小さくやや離岸、7月はかなり小さくはなはだ離岸、8月ははなはだ小さく離岸距離は平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、6月は規模は平年並みでかなり離岸、7月は規模・接岸距離ともに平年並み、8月はやや大きく接岸距離は平年並み。佐渡島沖の冷水域は、6月は規模はやや小さくかなり離岸、7月はかなり小さくやや離岸、8月はかなり小さくかなり離岸。入道埼沖の冷水域は、6月は規模はかなり小さくはなはだ離岸、7月は規模はかなり小さくやや離岸、8月はやや小さくかなり離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温
6月は概ね“やや高め”～“かなり高め”で、特に北海道西方、新潟県沿岸、大和碓周辺、山口県沿岸では“はなはだ高め”。7月は隠岐島北方で“はなはだ高め”、富山湾から佐渡島周辺で“かなり高め”、北海道西方沖で“かなり低め”。8月は山口県北方で“かなり高め”～“はなはだ高め”、新潟県沿岸と北海道西岸で平年並み以外は、データが無く不明。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、6月は日本海北部では“かなり高め”、西部では“やや高め”。

3. 現況（2016年9月）

- (1) 暖水域は、隠岐諸島北方、佐渡島北方、津軽半島西方に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、規模は平年並みでやや離岸。山陰・若狭沖の冷水域は、やや大きく接岸距離は平年並み。佐渡島沖の冷水域は、かなり小さくやや離岸。入道埼沖の冷水域は、やや小さく接岸距離は平年並み。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、鳥取県～但馬沿岸で“やや低め”～“かなり低め”、山形県沿岸から佐渡北方にかけて“やや高め”～“かなり高め”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海北部では“平年並み”、西部では“やや低め”。

(註) 引用符(“ ”)で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

- | | |
|--------------|--------------------------------|
| “はなはだ高め(低め)” | : 約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ(低さ) |
| “かなり高め(低め)” | : 約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ(低さ) |
| “やや高め(低め)” | : 約4年に1回の出現確率である1℃程度の高さ(低さ) |
| “平年並み” | : 約2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温 |

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場	福井県水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	京都府農林水産技術センター 海洋センター
秋田県水産振興センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
山形県水産試験場	鳥取県水産試験場
新潟県水産海洋研究所	島根県水産技術センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	山口県水産研究センター
石川県水産総合センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター (取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 日本海区水産研究所